



(湖北医師会内)
長浜米原地域医療支援センター
事業報告2024

在宅医療・介護連携コーディネーター

丸岡 留美子

池野さち子

長浜米原地域医療支援センターは、湖北医師会・湖北歯科医師会・湖北薬剤師会・訪問看護ステーション連絡協議会（第6地区支部で）構成する団体で、湖北医師会内に設置されています。

長浜市・米原市からの委託を受け、在宅医療・介護連携推進事業を行っています。



長浜米原地域医療支援センター



コーディネーター
池野

事務長
堀川

センター長
森上

コーディネーター
丸岡

在宅医療・介護連携支援コーディネーターの役割

- ①ホームページでの情報発信
- ②住民への普及啓発
- ③医療福祉介護関係の専門職への相談支援
- ④多職種連携支援
- ⑤県・長浜市・米原市とともに行う課題の整理

【日常療養支援】	【入退院支援】
【急変時】	【看取り】

当支援センターは長浜市・米原市からの委託を受け、在宅医療・介護連携推進事業を行っています。

在宅医療と介護が共通する4つの場面（日常療養支援・入退院支援・急変時対応・看取り）において、両市とともに課題を抽出し、目指す姿と取り組みをロジックモデル（設計図）に落とし込み整理しています。

目指す姿に向かってPDCAサイクルに沿った取り組みができているか等を評価している段階です。

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行となった2023年以降は、住民啓発の出前講座の依頼も増え、多職種連携研修会も対面で開催できるようになり、専門職の顔の見える関係づくりができるようになりました。

下記の事業項目に沿って最終評価と課題を報告します。

- (1) 在宅医療と在宅介護のそれぞれの提供体制を構築するため、受託者が中核的な役割を発揮しながら現状把握と必要な情報を収集し、課題を把握・分析、施策の企画及び立案をし、医療・介護関係者に周知する業務
- (2) 地域の医療・介護関係者からの在宅医療介護連携に関する相談に応じ必要な情報提供及び助言、その他必要な援助を行う業務
- (3) 在宅医療・介護連携に関して地域住民の理解を深めるために普及啓発を行う業務
- (4) 医療・介護関係者間の情報共有を支援する事業、在宅医療・介護関係者に対して在宅医療・介護連携に必要な知識の習得及び当該知識の向上のために必要な研修を行う事業、その他地域の実情に応じて医療・介護関係者を支援する業務
- (5) その他の事業

(1) 在宅医療と在宅介護のそれぞれの提供体制を構築するため、受託者が中核的な役割を發揮しながら現状把握と必要な情報を収集し、課題を把握・分析、施策の企画及び立案をし、医療・介護関係者に周知する業務

- ①地域の医療・介護の資源情報を把握する。
- ②ホームページを活用し、資源情報を医療・介護関係者や住民へ公開提供する。
- ③資源情報は、最新情報を提供できるように適宜更新作業を行う。
- ④診療所および訪問看護ステーションの機能詳細情報の調査を行い、関係機関へ情報共有する。
- ⑤関係者専用ページを設置し、湖北地域の共通資料等を集約することでホームページの充実を図る。
- ⑥在宅医療と在宅介護における課題を、調査・ヒアリングなどで聞き取り把握する。
- ⑦把握した課題を整理し、関係機関と連携し解決に向け取り組む。
- ⑧⑥⑦について関係者へフィードバックし、円滑な連携が図れるようにする。
- ⑨事業会議を開催し両市と協力し、⑥⑦⑧で把握した内容などを基に、課題分析・対応策を検討する。
- ⑩両市と共に⑨で検討した対応策を企画・実施し、評価する。

(1) ー ①情報の把握と発信

- ◇2024年3月にホームページの見直しを行い、関連書類の整理や掲載方法の検討を行い大きくリニューアルした。
- ◇「医療介護関係者向け」サイトに、両市が開催するケアマネジャー研修会資料などを掲載し幅広く活用。
- ◇「お役立ち情報」サイトには、ダウンロードできる資料や地域共通の手順等を掲載し活用できるようにした。
- ◇ 研修前には、「HP紹介のパワポ」を動画で流しアピールした。
- ◇ 8月には広報紙つながり9号にてホームページの紹介を行い、アンケート調査を開始した。
「必要な情報を調べられて良かったです。」「分かりやすかった。」という感想が多く、100%の方が「ほしい情報があった」と答えた。
- ◆年間HPアクセス件数ものびている。

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
2120	2726	3139	2679	3804	33725	65582	98233

■今後の課題

- 2025年度に診療所の機能調査を実施（2年に1回） 調査項目も追加しHPに掲載予定。
- 新規の事業所へ案内ができる資料の検討、HPへの掲載



資源情報

住民向け講座

関係機関のご案内

医療介護関係者向け

医療介護関係者向け

関係者限定ページ

医療介護関係者向けを
大きくリニューアル

ホーム / 医療介護関係者向け

このページに掲載している資料は、関係者限定での公開となります。パスワードや資料の取り扱いにはご注意ください。

 研修会	 居宅介護支援事業所研修会資料等	 各種マニュアル・様式
 他職種間の情報共有	 医療介護の相談窓口	 お役立ち情報・資料

(1) ー ②実態の把握

- ・在宅医療福祉関連機関の現状・課題把握と課題のフィードバックや検討
- ・在宅療養支援に必要な情報の集約・周知

◇関連する会議等へ参加し意見を収集した。

◇支援関係者からの相談内容も課題や取り組みへの参考にした。

◇長浜市、米原市、保健所で把握している関係者からのデータ（アンケート調査等）や会議内容も参考に必要な情報を得た。

◇米原市の課題である「心不全患者の再入院予防」について、ケアマネ研修や事例検討会を行い、研修のグループワークで話し合った内容は、課題の抽出や取り組みのヒントとなり効果的である。

■今後の課題

- 長浜市・米原市ともに身寄りのない人への支援について課題としている。
身寄りのない人への在宅医療と介護の連携にまつわる具体的な課題としてはまだ整理ができていない段階。両市の情報収集と課題抽出が必要。
そのなかで、支援センターが何ができるのか検討していく。
- 入退院支援の課題：支援者のACPに対する意識やスキルの向上、つないでいく対応策が必要（研修にて検討）

(1) ー ③県・市と行う事業会議での共有・分析・課題の抽出

<p>【日常の療養支援の場面】</p> <p>ケアマネジャーの力量 診療所と包括支援センターとの連携 ケアマネジャーと医師との関係 びわこあさがおネットについて</p>	<p>【入退院支援の場面】</p> <p>入院時サマリの活用 入院中の連携の不備 病院職員の在宅イメージの不足 <u>薬や物品の連携</u></p>
<p>【急変時の場面】</p> <p>かかりつけ医との関係 往診体制 救急外来センターとの関係 消防との関係</p>	<p>【看取りの場面】</p> <p>緩和ケアの現状 看取りの体制 施設看取り 病院とのW主治医との関係 社会問題の影響 ACPへの意識</p>

ACP

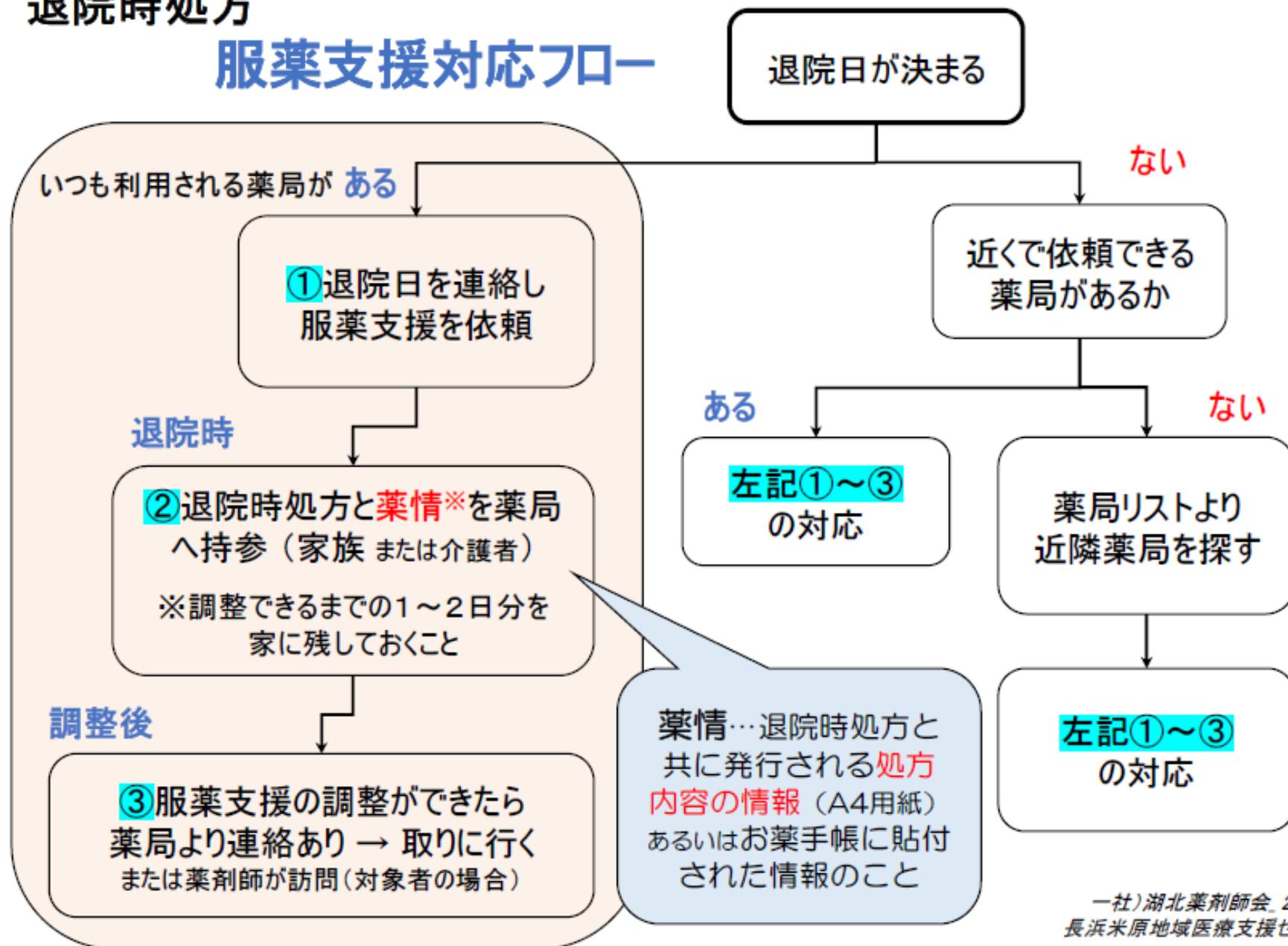
◇4つの場面における課題より、今年度は「入退院支援の場面」の薬の連携への対応について、湖北薬剤師会、訪問看護ステーションとともにいった。

薬の連携 できることを考えよう!

R6.7.8会議より抜粋

視点	できること	キャッチフレーズ	内容
体制	保険薬局のできること	飲みやすく整理して お渡しします! (外来服薬支援)	退院時、 <u>服薬支援対応フロー</u> の作成 ①退院時の薬をいつも利用される薬局へ 持参し整理 ②かかりつけがなければ、 リストを参考に近隣の薬局へ依頼
人材育成	保険薬局の役割を知る 人材が増えること	退院時処方に困ったら 薬局に依頼しよう!	<u>訪問看護連協へ、体制の情報共有</u>
連携	保険薬局が入退院の 把握ができること		湖北地域の薬局に、対応・連携の周知をする <u>入退院の把握の連携</u>
住民啓発	患者本人や家族が 対応できること	薬局は 薬をもらうだけではない。 気楽に相談しよう!	<u>薬局の認識を変えてもらう</u> ・気楽になんでも聞ける、信頼できるかかりつけ 薬局をもつ ・残薬を減らすために活用を ・薬局から医師に確認、提案します ・在宅で薬の管理をします(訪問)

退院時処方 服薬支援対応フロー



連携の評価と今後に向けて

2月 第5回会議 (湖北薬剤師会・訪問看護ステーション・センター)



- ・今回、フローを使ってうまく連携できていることがわかった。
- ・このような機会に保険薬局の薬剤師の役割を理解し、いつでも相談してもらえるといい。
 - ⇒今後ケアマネジャーやヘルパーなど訪問看護以外の職種へフローを伝達していく
 - 長浜市・米原市ケアマネジャー担当者と協議し、
 - 来年度初めの居宅介護支援事業所の会で説明する予定(4月)
- ・薬剤師会と他職種との研修を企画検討
 - ⇒フローや薬剤師の役割について具体的に事例を通じた学習と交流の機会をもつ
 - 来年度予定(5月・6月)
- ・住民教育 ⇒住民に保険薬局の役割を知っていただく。
 - 退院後、薬局を利用してもらえる、相談できるところ
 - 研修の中で、専門職ひとりひとりが意識して住民教育できるとよい

連携の広がり
ひとりひとりの見守りへ
つながる

(1) ー ③県・市と行う事業会議での共有・分析・課題の抽出

<p>【日常の療養支援の場面】</p> <p>ケアマネジャーの力量 診療所と包括支援センターとの連携 ケアマネジャーと医師との関係 びわこあさがおネットについて</p>	<p>【入退院支援の場面】</p> <p>入院時サマリの活用 入院中の連携の不備 病院職員の在宅イメージの不足 薬や物品の連携</p>
<p>【急変時の場面】</p> <p>かかりつけ医との関係 往診体制 <u>救急外来センターとの関係</u> <u>消防との関係</u></p>	<p>【看取りの場面】</p> <p>緩和ケアの現状 看取りの体制 施設看取り 病院とのW主治医との関係 社会問題の影響 ACPへの意識</p>

ACP

◇今年度は「急変時の場面」における連携の困りごとに焦点をあてて、訪問看護ステーション、サービス事業者協議会とともに調査を行い課題の整理をした。

■今後の予定

- 収集した情報を整理し、消防や救急外来へのヒアリング内容の検討
- 具体的な今後の動きの検討（ヒアリング日時等）

(2) 地域の医療・介護関係者からの在宅医療介護連携に関する相談に応じ、必要な情報提供及び助言、その他必要な援助を行う事業

- ①コーディネーター及び医療・介護専門員を設置する。
- ②関係者への専門職の相談窓口であることを、チラシや機関誌を活用し積極的にアピールする。
- ③関係者からの在宅医療と介護連携に関する相談を受付し、必要に応じて関係者間で共有する。
- ④湖北圏域全体に波及する課題があれば、意見交換会などを開催し、方策を検討する。
- ⑤相談内容を集約し、課題を事業(1)の分析・対応策の検討につなげる。

◆相談支援（2024年度1年間）

相談者の職種	計58件
介護支援専門員	9件
訪問看護師	12件
病院医師	1件
病院看護師	7件
病院事務	1件
診療所医師	7件
診療所看護師	1件
地域包括支援センター	6件
保健師	5件
相談員	1件
社協	1件
薬剤師	1件
栄養士	1件
住民	4件
他地域より	1件

相談内容としては

- ・退院支援時の連携に関する困りごと
- ・病院と診療所の間での連携や周知に関する事
- ・地域の事業所やサービス内容など資源に関する情報提供
- ・医療行為に関する事
- ・医療機器（吸引器等）の貸し出しに関する事
- ・施設との連携の困りごと
- ・看取り代診システムについての問い合わせ
- ・薬の管理について
- ・ケアに関する事
- ・びわこあさがおの活用
- ・エンディングノートなど

◇事業会議にて、相談内容の概要一覧を提示し、課題につながる事例を共有している。

■今後の予定

- HP上で相談フォームを設置した。利用状況を把握する。
- 交流会の中で、気楽に相談できる時間をつくる。
- 相談内容から、地域課題へ吸い上げていく。

(3) 在宅医療・介護連携に関して地域住民の理解を深めるために普及啓発を行う事業

- ①地域の関係機関・団体が実施する取り組みなどを把握し、内容や実施方法を検討する。
- ②①で検討した住民向け講演会や出前講座を開催する。
- ③生活支援コーディネーターや認知症推進員らと協働する。
- ④地域包括支援センターと連携し、地域の情報を共有する。
- ⑤オリジナルエンディングノートなど、在宅医療・介護に関する啓発資料の作成をする。
- ⑥出前講座の案内や在宅医療の啓発資材の配布・設置をし、広く周知する。

◆我がまちの地域包括ケアを考える会

担当	項目	内容
県	「我がまちの地域包括ケア」を考える研修会 在宅医療・介護連携を考える研修会～実践から学ぶ～	目標:医療と介護の連携に関して、今後自分が取り組めることを考えることができる。 1. 医療と介護の連携の好事例(ケアマネ、管理栄養士)から、連携によるメリットや効果を期待できる。 2. ロジックモデルを用いて在宅医療・介護連携推進事業を検討したことによる気づきや取り組み内容が理解できる。(野洲市の事例) グループワーク
長浜市	3CO関係者と会議(2回)	10月1日 3Co会議 ロジックの看取りの場面の共有 3月4日 3Co会議 県研修の伝達 今年度の取組の振り返りと今後に向けた取り組み コラボ 11月16日 認知症講座+人生会議 (余呉まちづくりセンター) 11月 西浅井塩津サロンにて西浅井診療所のACP出前講座の見学 3月21日 「人生会議」講座 (高月民生委員)
米原市	3CO関係者と会議(2回)	9月27日 3Co会議 ロジックの看取りの場面の共有 1月22日 3Co会議 来年度に向けての取組の検討 コラボ 11月17日 米原市地域共生フェスタ にてポスター展示と啓発資料の設置

■今後の取組

□長浜市・米原市共通の「人生会議」の啓発資料を作成し、誰もが伝えていけるようにしていく

◆出前講座・地域医療福祉フォーラムなどの経緯

	出前講座		主催フォーラム・講座		備考
	回数	参加人数	回数	参加人数	
2024年	19	302	3	52	「健やかな高齢期を迎えるために」3回シリーズで開催 他に、がんフォーラムのシンポジスト(227名)、認知症講座(35名)等協力
2023年	18	312	3	56	コロナが第5類となり、出前講座の依頼が増加 地域包括と共催にて住民講座「もしバナゲーム」を実施
2022年	9	267	1	70	出前講座で「もしバナ紹介動画」を視聴 啓発グッズ一式提供 140部
2021年	10	200	コロナ禍で休止		もしバナ紹介動画作製 民生委員など希望の団体に啓発グッズ提供 110部
2020年	16	261	コロナ禍で休止		コロナ感染で出前講座やフォーラム等が休止にて各団体に資料提供を行い活用してもらう事にした 啓発グッズ一式提供 350部
2019年	14	364	1	128	

② 住民への普及啓発

◆ 住民向け講座の開催「健やかな高齢期を迎えるために」をテーマに3つの講座を開催

第1回（6月）「起こりやすい病気や事故の予防」
赤十字健康生活支援講習指導員を講師に病気や事故の予防と対応。当センターからは医療とケアの備えとして人生会議について講義

第2回（8月）「よくわかる在宅医療&介護」
冊子を使い、在宅で受けられる医療や看護、介護などについて講義し、最後にいざというときの備えとしてエンディングノートの紹介

第3回（9月）「薬局をもっと身近に!!」
湖北薬剤師会 薬剤師を講師に薬局、薬剤師の仕事やポリファーマシーについて。またおくすりのお悩み相談も実施。



- 「人生の最終段階」や「人生会議」という言葉だけでは、集客は望めない。高齢者は健康や予防に関する講座のニーズが高く、講座内容を検討した。

◆ 住民向け出前講座



◇19件 302人の参加

老人会、自治会サロンからの申し込み依頼がほとんど。

◇出前講座のチラシを見直し、「よくわかる在宅医療と介護」を追加し3講座とした。

◇講座後のアンケート実施や受講から1年後に追跡調査を実施し、意識の変化やエンディングノートの活用状況を分析している。

■ 今後の予定

□引き続き、追跡調査の統計と分析、支援者(代弁者)世代への啓発

「住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすために」

出前講座のご案内

自治会やサロン、老人会など、地域の集まりに出張します。

これからの人生、どこでどのような医療やケア(介護等)を望むかなど、ご自身の思いや希望について考えるきっかけづくりに、3つの講座をご用意しています。

講座名	具体的な内容 (いずれも60分程度)
①よくわかる在宅医療とケア	在宅で受けられる医療やケアについて ・在宅で受けられる医療と看護 ・介護サービスの利用の仕方 ・どんな準備をしたらいいの? ・いざというときの備え ※「よくわかる在宅医療と介護」の冊子を配布
②最期まで自分らしく生きるための「人生会議」について	望む医療やケアを大切な人と話し合うこと=人生会議 ・元気なうちからの人生会議 ・どんなことを考えたらいいの? ・考えを書き留めておくこと ※オリジナル「大切な人へ伝えたいノート」を配布
③もしものときの望む医療やケアを考えてみよう	「もしバナ」ゲーム(もしものための話し合い) ・自分が何を大切に過ごしたいか、カードゲームをしながら、みんなで楽しく考えるきっかけとなります。

※ 受講者の感想は裏面をごらんください

対象 長浜市・米原市にお住まいの方で、5名以上のグループ

費用無料 平日10時~16時の開催
最寄りの会館などに、講座資料や必要な道具を持参します

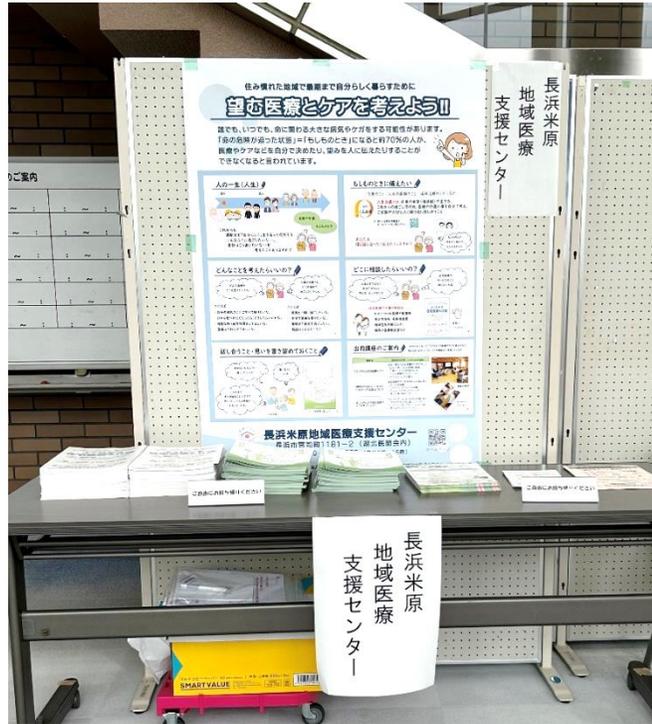
ご希望の講座と日時や内容について、まずはお電話ください。

TEL 0749-65-2755 (平日10時~16時)

長浜米原地域医療支援センター

長浜市宮司町1181-2 (湖北医師会内)

◆ 啓発資料の見直しと啓発方法



◇ 「人生会議」の掲示用ポスターを作成し、様々なイベントで啓発。「大切な人へ伝えたいノート」なども設置している。

■ 今後の予定
イベント等で団体とコラボし、多世代への啓発

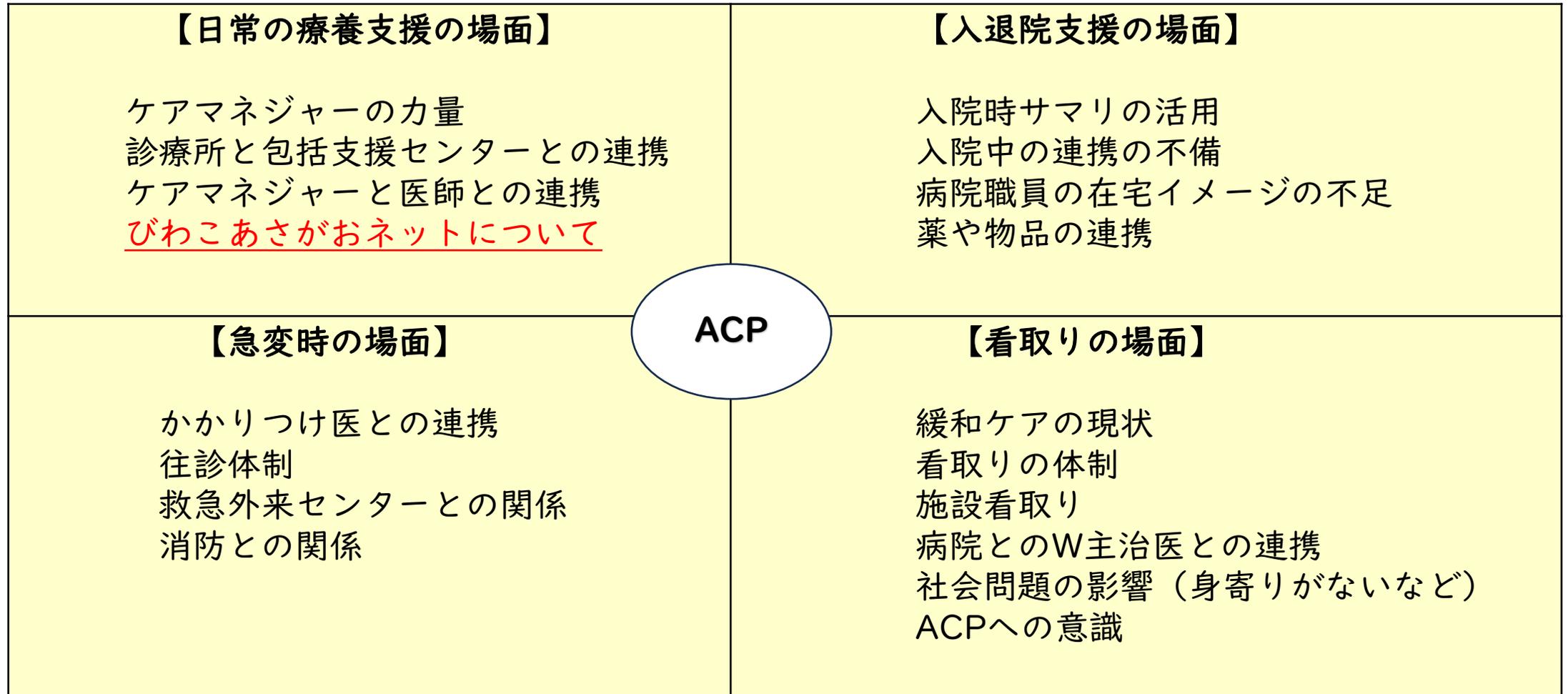


オリジナルエンディングノート「大切な人へ伝えたいノート」
人生会議が進めやすいよう流れを考え作成

**(4) 医療・介護関係者間の情報共有を支援する事業、在宅医療・介護関係者に対して
在宅医療・介護連携に必要な知識の習得及び当該知識の向上のために必要な研修を行う事業**

- ①関係者らと情報共有ツール等の利用促進のための検討をする。
- ②ホームページを活用し、関係者の共通するマニュアルや様式等の集約を行い連携の支援をする。
- ③湖北地域の多職種連携・情報共有を目的とした機関誌「つながり」の発行をする。
- ④関係団体の活動状況を把握し、多職種の課題に応じた研修の企画・開催をする。
- ⑤多職種の顔が見える関係を築くための交流の場を作り連携を支援する。
- ⑥湖北医師会地域包括ケア部と協力し、在宅看取りの代診システムモデルチームの運用を支援する。
- ⑦在宅看取りの代診システムの拡大をめざし検討会議を開催する。

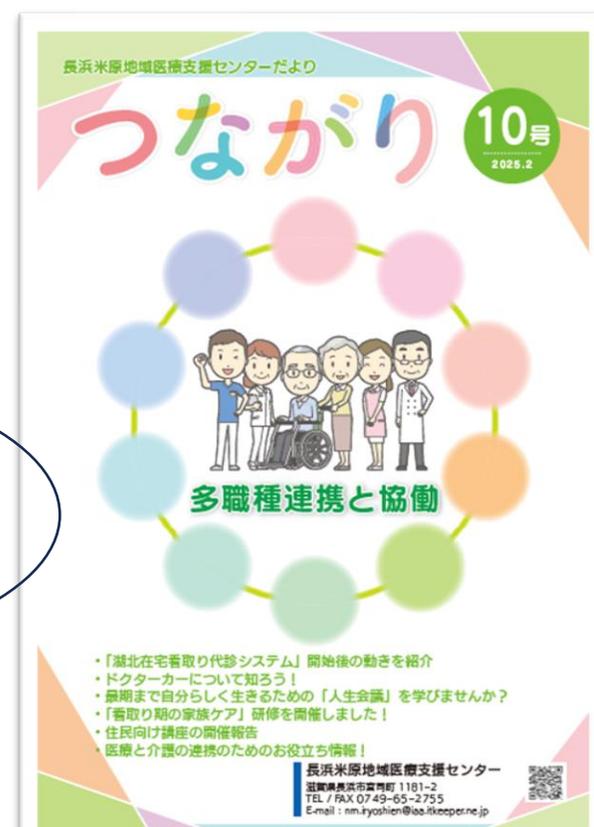
①情報共有ツールの利用促進



◇今年度、湖北エリアの利用状況について調査した。登録施設数は変わらず、ユーザー数は減少
アクセスにも偏りがある。活用している施設は、書類送付や状態把握等メリットが大きい。
メリットを広報つなかりに掲載しアピール。使い方がわからず使いこなせていない事業所あり。

■来年度に、関係者とともに研修を開催予定。

③専門職を対象とした広報誌つながりの発行



年2回専門職向けに
様々な情報をお届け
しています。

- ・ ホームページの紹介
医療・介護関係者向け専用ページの詳細について
- ・ 多職種連携交流会の様子をご紹介
- ・ 学習会「看取り期の家族ケア」のご案内

- ・ 「在宅看取り代診システム」開始後の動きを紹介
- ・ ドクターカーについて知ろう
- ・ 最期まで自分らしく生きるための「人生会議」
- ・ 学習会や住民向け講座の開催報告
- ・ 連携のためのお役立ち情報

■今後の予定

◇ 発行の回数の検討 なるべくホームページに誘導していく

④ 多職種連携支援

<学習会>

開催日程／講師	テーマ	様子	参加数
2024年 6月18日 8月22日 10月3日 12月6日 2025年 2月20日 講師 長浜米原地域医療支援センター 丸岡 留美子	みんなで考えよう!人生会議 講義 「人生会議のすすめかた」		89人
2024年 5月16日 10月31日 講師 長浜米原地域医療支援センター 丸岡 留美子	講義「看取り期の家族ケア」 ～大切な人へできること～ 看取りのリーフレットを使って 利用者家族へのコミュニケーション を学びませんか?		61人 前年 含む計 94名

■今後の予定

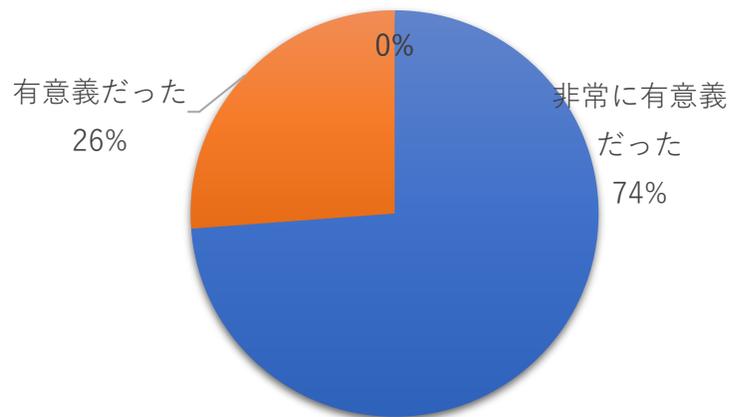
◇人生会議についての研修は継続していく。意向を多職種でつないでいくことが課題。

⑥多職種連携支援

<交流会>

開催日程／講師	テーマ	参加数
2024年 6月18日 8月22日 10月3日 12月6日 2025年 2月20日 講師 長浜米原地域医療支援センター 池野 さち子	みんなで考えよう！人生会議 「もしバナゲームを体験しよう！」 「ほっこりつながりタイム」 	89人

第2部もしバナゲームについて



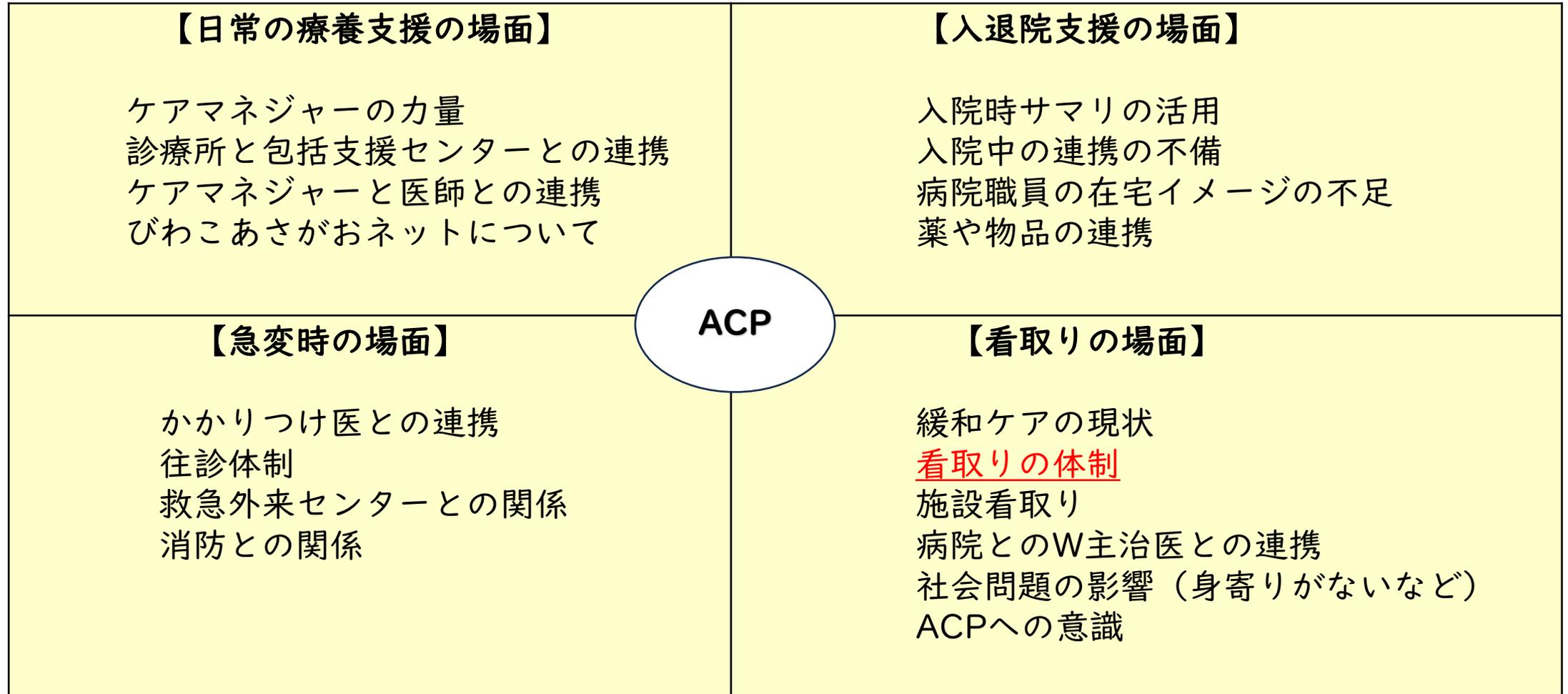
【有意義だった理由】

- ・ 価値観の違いの大切さに気づけた
- ・ 自分の新しい発見、初めて知る思い
- ・ 希望がはっきりした
- ・ ゲームが自分の最期を気負いなく考えるきっかけづくり
- ・ 本音を話す機会
- ・ イメージできた 可視化できた

■今後の予定

- ◇ 自分自身の人生会議のあり方を知るきっかけとし、支援者として意思決定支援に活かせるように継続

⑥湖北在宅看取り代診システムの構築



◇湖北地域の診療所調査によると8割近く代診がないのが現状であり、単独医師への支援（負担の軽減）が重要。在宅療養者が最期まで安心して療養生活ができるような体制整備が求められるため、湖北在宅看取り代診システムの構築をすすめた。

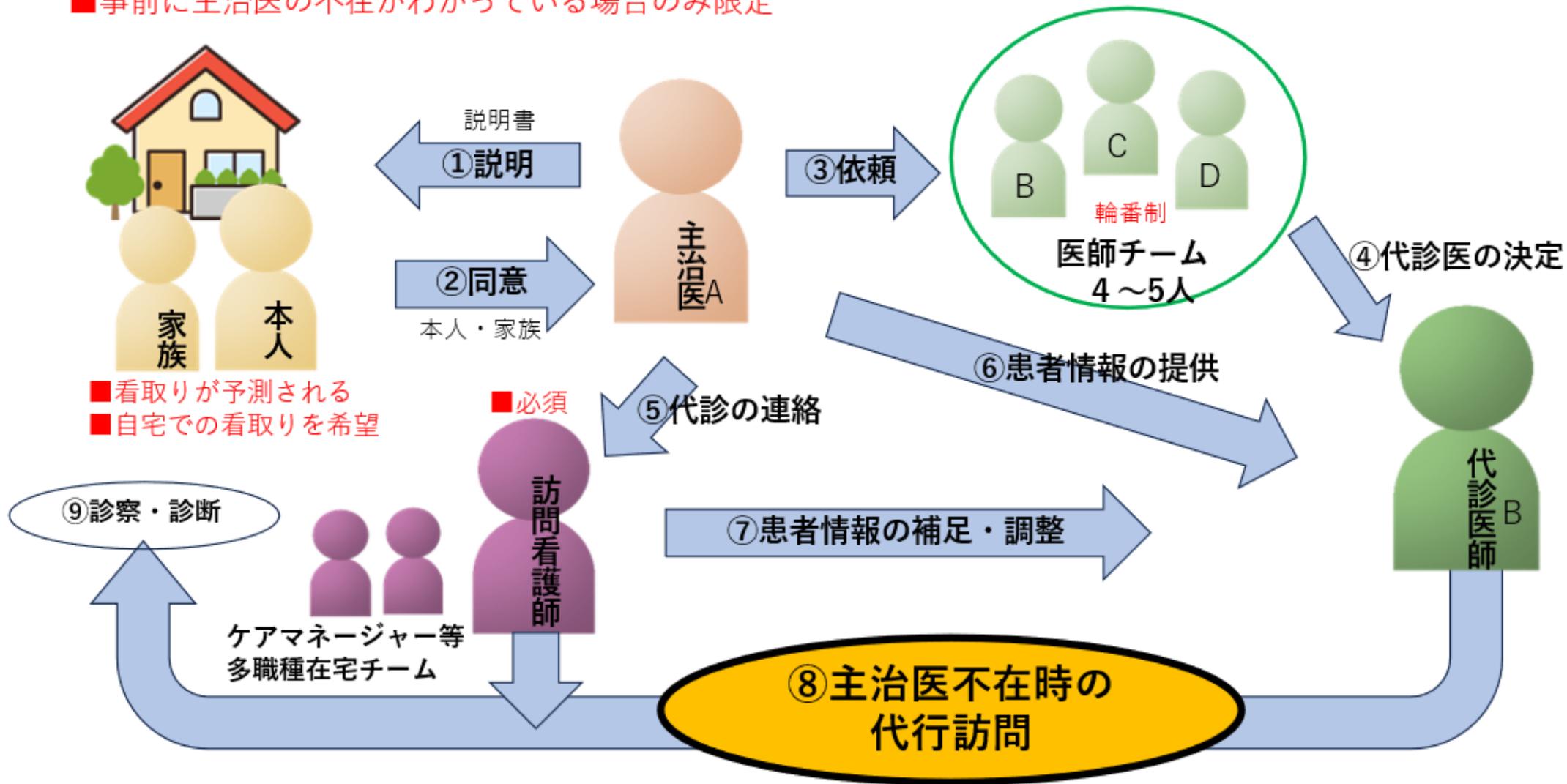
◆看取り期の連携システムの構築（浅井虎姫地区 R5年11月開始）

湖北在宅看取り代診システム

浅井虎姫地区診療所モデル

条件

■事前に主治医の不在がわかっている場合のみ限定



ケース 1

70歳代 がんターミナル 倦怠感やADLの低下にて在宅療養を整える目的にて、A診療所より紹介入院。
入院数日後、「明日にでも在宅に帰りたい」と本人の希望あり。家族も在宅看取りを考えている。予後は日にち単位。
在宅主治医のA診療所に患者家族の意向を伝えたところ、退院後のゴールデンウィーク中4日間、もし看取りになった場合、対応できないとのこと。
代診システムを活用し、代診医の決定を行った。

5月	3日	4日	5日	6日
B診療所	●	×	×	×
C診療所	×	×	×	×
D診療所	×	×	×	●
バックアップ E診療所		●	●	

【診療所医師の声】

「いいシステムだと思う。持ちつもたれつの関係ができた」
「自分が困ったときも利用したい。学会に行きやすくなった」
「外出の予定はなかったので、待機に負担はなかった」

ケース 2

90歳代 がんターミナル 高齢であり治療せずに対症療法にて、A診療所より往診を受けている。
「自宅で過ごしたい」と本人の希望あり。家族（敷地内同居の息子）も「できる限り在宅で見ていきたい」
予後は週単位。出血が続いているので、いつ急変するかわからないと家族に説明あり。
A診療所主治医が不在になるため、代診システムを活用された。

7月	12日	13日	14日	15日
B診療所	●			●
C診療所		●	●	
D診療所				
バックアップ E診療所				

ケース 3

80歳代 がんターミナル 経口は少しずつ摂取。訪問看護にて週2回の点滴を施行。妻がシャワー介助しているレベル。週単位か。
主治医B診療所が土日の休日に不在が決まっており、A診療所に依頼され受け入れOK。
B診療所は、不明な点を支援センターに確認されながら、マニュアル通りに実施。
支援センターは、訪問看護ステーションに流れの説明を行った。
その後休日前に、A診療所と看取り時について調整された。

※3ケースとも、死亡診断までには至っていない。（待機のみ）

【ご家族の声】

「特に不安はないです。」



【訪問看護師の声】

「主治医の不在の時、代診医がいてくださったことは心強かった」

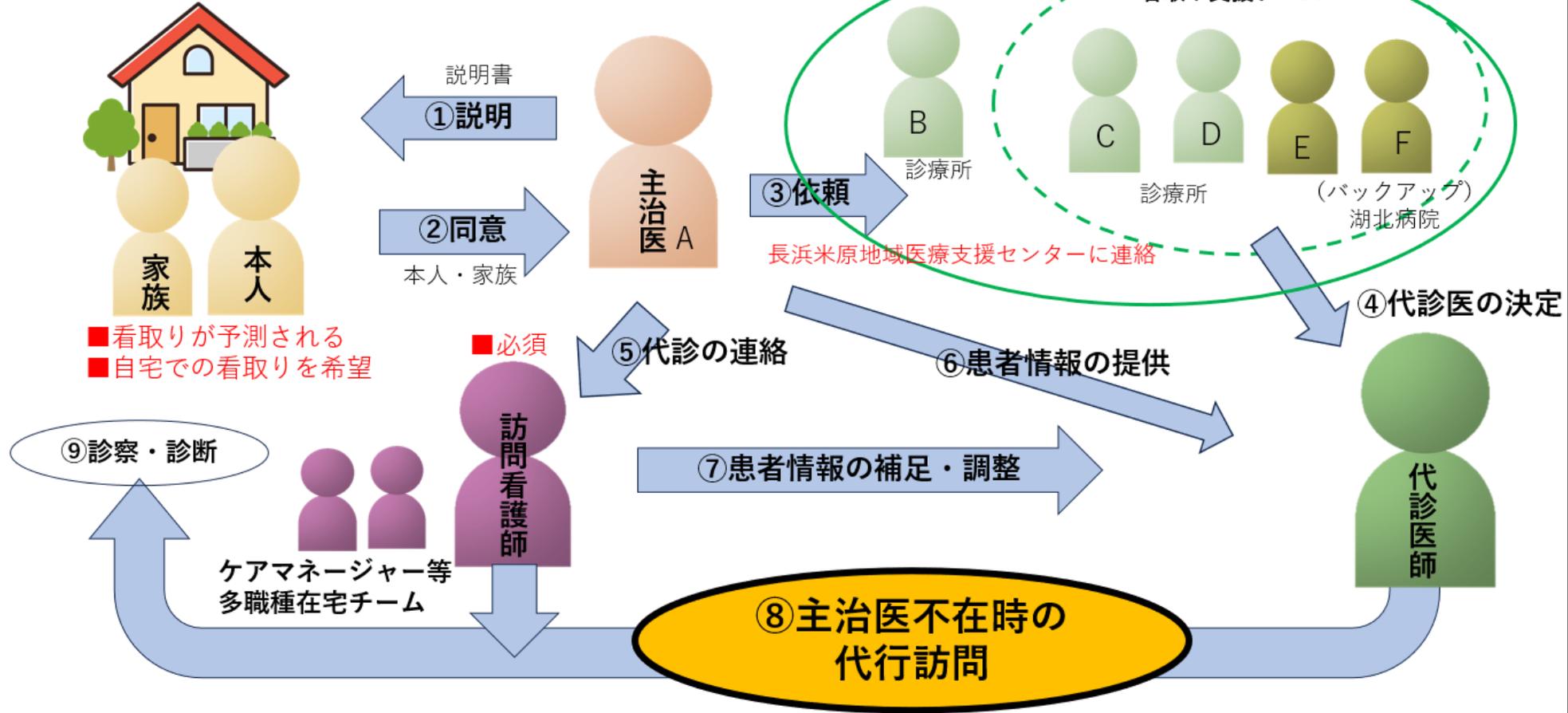
◆看取り期の連携システムの構築（木之本高月湖北地区診療所 R7年4月開始）

湖北在宅看取り代診システム

木之本高月湖北地区診療所モデル

条件

■事前に主治医の不在がわかっている場合のみ限定



■看取りが予測される
■自宅での看取りを希望

■今後の予定

- 各チームの支援と実施の評価
- 米原市を検討予定

(5) その他の事業

◆ 関係する会議に参画

- ①長浜米原地域医療支援センター事業会議（毎月）
- ②湖北地域介護サービス事業者協議会にオブザーバーとして参画（3回）
- ③入退院支援体制検討会（保健所主催：1回）
- ④湖北地域看護職連携会議（看護協会主催：1回／2か月 6回）
- ⑤我がまちの地域包括ケアを考える研修会（市町主催：長浜3回・米原3回 県主催1回）
- ⑥難病対策地域協議会（保健所主催：1回／年）
- ⑦第6地区訪問看護ステーション連絡協議会定例会（2回）
- ⑧その他

地域包括支援センター主催 薬剤師とケアマネジャーとの交流会、栄養士会、ケアマネジャー会議に参加など